



子宮頸がん

産婦人科

長谷川 徹



子宮頸がんはわが国では年間約1万人が罹患し、約2,800人が死亡しており、患者数・死亡者数とも近年漸増傾向にあります。特に、他の年齢層に比較して20歳～40歳代の若い世代での罹患の増加が著しいものとなっています。

子宮頸がんの95%以上がヒトパピローマウイルス（HPV）による感染が原因で起こり、感染経路は性的接触と考えられます。ただしHPV感染から子宮頸がんを発症する割合はわずかで、この感染自体はごくありふれた現象です。この感染のほとんどが一時的でウイルスが自然消失しますが、約10%ではウイルスが消えずに感染が長期化し将来、子宮頸がんに進む可能性があります。

子宮頸がんは初期の段階では症状が出ないことも多く検診などではじめて診断されるケースも少なくありません。一般的にHPVの感染から子宮頸がん発症までには数年から十数年かかるといわれ、前がん病変（異形成）の検出のためにも検診が重要となります。

またHPVワクチンは子宮頸がんの予防に有

効で、この接種を取り入れた世界各国でHPV感染や前がん病変の発生が有意に低下していることが報告されています。初めての性交渉を経験する前に接種することが最も効果的で、わが国でも公費助成による接種が可能です。HPVワクチンと検診を適切に組み合わせることで子宮頸がんを撲滅することが世界的な課題となっています。



子宮頸部異形成（白い部分）

なお今後の新型コロナウイルスの感染状況により、予定が変更となる場合は、再度ホームページや、ふれあい地域医療センターからのFAXでお知らせいたします。

腎臓内科 大田 聡

今後、一人でも多くの高齢の腎不全患者さんが住み慣れた自宅で安心してPD治療を受けながら療養できるように、さらに精進させていただきたいと考えておりますので、地域の先生方やスタッフの皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

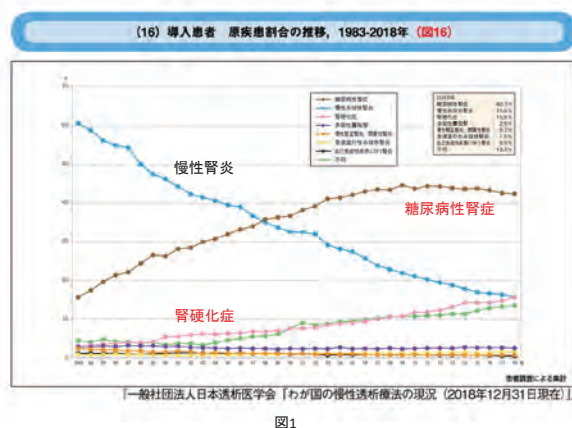


图1

1. 地域連携・開放型病床症例検討会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期になりました3月10日の開催内容は、4月に開催を予定しております。今後の状況によっては予定が変更になる場合も考えられますが、その場合はご連絡をさせていただきます。先生方にはご迷惑おかけし大変申し訳ありませんが、何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

日時：4月14日(火) 19:00～20:15 場所：当院3階 講堂

1) 症例検討(2例)

①『肺病変を合併した壊疽性膿皮症の1例』

呼吸器内科 野村 俊一

②『診断に苦慮した中咽頭癌症例』

耳鼻いんこう科・頭頸部外科 辻 亮

2) ミニレクチャー：『当院における手掌多汗症に対する取り組み』

呼吸器外科 山本 優、土岐 善紀、瀬川 正孝

「他人と握手できない」「触れた紙が濡れてしまう」「ハンドタオルを手放せない」。これらは私たちが外来で会う、手掌多汗に悩む患者に共通する訴えである。手掌多汗症の主な治療には内服治療や多汗部への外用剤塗布、イオントフォレーシス、手術などが挙げられる。しかし前三者の治療効果は一時的であり、患者にとって十分な満足を得られていないことが多い。一方手術は胸部交感神経切断術が一般的な術式であり、手掌発汗停止を得られる反面、腰背部や臀部、下肢、足底などへの代償性発汗は不可避である。術前に代償性発汗の程度を予測することは困難であり、

永続的に代償性発汗に悩まされることもある。このような背景をもとに当科では2016年4月より、従来の交感神経を完全切断する術式ではなく、約8割を切断する「交感神経重切断術」を考案し行なっている。手掌発汗停止を得られるとともに、必発である代償性発汗を生活に支障をきたさない程度にとどめることが可能と考えている。術後には、患者の主観的評価による1年(四季)を通じた手掌及び代償性発汗程度についてアンケート調査を行い、高い満足度を得られている。アンケート調査結果を含め、当科における手掌多汗症に対する取り組みを紹介する。

予告

日時：5月12日(火) 19:00～20:15 当院3階 講堂

内容：①症例検討 2例

(担当) 外科、放射線科

②ミニレクチャー

(担当) 消化器内科

2. 内科CPC

4月の開催は、ありません

3. 看護研修

※新型コロナウイルスの感染状況により、今後の予定が変更となる場合があります。

《衛星研修S-QUE Eナース》

(1) テーマ：看護部で取り組む身近な

災害対応への基本的危機管理

視聴期間：4月9日～4月30日

(2) テーマ：チームで取り組む医療安全対策

シリーズ～

多職種連携におけるコミュニケーション

視聴期間：4月23日～5月15日

《衛星研修S-QUE 特別企画》

○テーマ：医師から看護師、看護師から看護補助者へのタスクシェアリング

視聴期間：4月6日～5月28日

※《衛星研修S-QUEシリーズ》は、予約申込みが必要です。視聴可能日は、月・木(祝日を除く)の14時～16時の間で予約制となっていますので視聴を希望される方は、ふれあい地域医療センターへご連絡ください。(TEL 076-422-1112代表 内線 2989)

※予約の当日は、2階 看護科事務室へお越しください。

《緩和医療部学習会、糖尿病研究会定例学習会、痔瘡対策学習会、NST学習会》

の4月の開催はありません。

5月以降の予定が決まり次第ホームページ・れんけいと支援でご案内いたします。

《新任看護職員研修》

当院では令和2年度採用の新人看護職員に対し、新任看護研修を実施いたします。地域の医療機関や施設に入職される看護職員の方に関しても当院職員と共に研修を受けていただければと考え、下記の通り計画いたしました。ご参加を希望される場合は、事前の申し込みが必要です。ふれあい地域医療センターへご連絡ください。(TEL076-422-1112代表 内線2989)

※募集は1研修につき7名程度とし、同一施設からの参加は1名とさせていただきます。白衣でなくてもよいですが、動きやすい服装でいらしてください。

※資料等の準備がありますので、遅くとも研修日の1週間前までにお申込みください。欠席される場合は、必ずご連絡ください。

※駐車場は外来患者さんが利用されますので、研修にお越しの際は公共交通機関をご利用ください。

技術研修の内容と日時

場所：3階講堂

No	内 容	開 催 日	時 間	研修形式
1	安全確保の技術(医療安全)	4月 2日(木)	9:45～12:00	講義・演習
2	感染防止の技術	4月 2日(木)	13:00～16:20	講義・演習
3	与薬 静脈内注射 点滴静脈注射	4月 3日(金)	9:00～12:00	講義・演習
4	与薬援助技術 経口薬の投与 麻薬製剤について 皮下注射 中心静脈内注射 輸血 誤薬防止の手順等	4月 3日(金)	13:30～17:00	講義・演習
5	食事援助技術	4月 7日(火)	13:30～15:00	講義・演習
6	排泄援助技術	4月 8日(水)	13:30～15:00	講義・演習
7	活動・休息援助技術	4月 9日(木)	13:30～15:00	講義・演習
8	輸液ポンプの準備と管理(ME)	4月14日(火)	13:30～16:30	講義・演習
9	救急蘇生法	6月 2日(火)	13:30～17:00	講義・演習
10	呼吸管理研修(基礎編)	6月 9日(火)	13:30～17:00	講義・演習

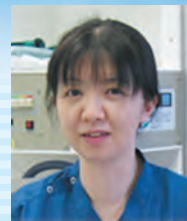


院内の活動のご紹介

Rapid Response Team(RRT)について

集中ケア認定看護師

島 佳子



院内で発症した心停止では、発症数時間前にはバイタルサインの変動がある、予期せぬICU入室のうち、高い確率でその数時間前に呼吸や循環の変調があると報告されています。予期せぬ心停止を回避するためには、予兆の段階で介入する必要があります。Rapid Response System(RRS)は、心停止をはじめとする重大な有害事象を早期に発見し、早期介入につなげる医療安全システムとして注目されています。当院では2017年にRRSが起動された時に対応するチームとしてRapid Response Team(RRT)を結成しました。RRTメンバーの構成は、救急科、集中治療科(ICU)、高度管理治療科(HCU)等の看護師で成り立っています。活動内容は、RRT専用PHSを持ち、要請があると病棟や外来に出動し、患者さんの状態評価と初期対応を行っています。また、心停止時には迅速に現場に駆けつけ、RRTが中心となっ

て救命処置を行っています。その他、RRT要請および院内心肺停止事例の振り返り、各部署とのカンファレンス、院内の救急カートの運用、急変対応シミュレーションによる院内教育、院内医療安全対策会議での事例報告などを行っています。

予期せぬ心停止を無くすという目的のもと、介入・教育・医療安全を意識して、活動を継続していきたいと思っています。そして地域の皆様が安心して入院生活を送れるよう更にRRSを構築させていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



左から 救急科 救急科 豊田、山端 ICU 島、清水

左から ICU 藤牧、山田 HCU 一ノ山

医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

4月

科 名	医 師 名	不 在 日	科 名	医 師 名	不 在 日
内 科	野村智	24日	産 婦 人 科	竹 村	24日
	茶 谷	8日、15日	小 児 科	和 田	1日午後、7日午前
	米 山	7日		牛 尾	1日午後
整形外科・関節再建外科	五 嶋	8日	眼 科	山 田	8日、13日、17日
呼吸器・血管外科	瀬 川	7日	耳鼻いんこう科・頭頸部外科	阿 河	8日
※その他、急に不在となることがありますのでふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112 (代) 内線2168			歯 科 口 腔 外 科	寺 島	24日、27日

編集後記

昨年、地域連携室に配属となり、1年が経ちました。息子も小学1年生。子供の1年の成長は早いもので最初の頃は「できない、行きたくない。」が口癖でしたが、最近では私より早く起き自主的に活動してくれるようになりました。私は退院調整業務に関わり、最初は戸惑いも多くありましたが今は改めて看護の大切さを実感しています。在宅・転院調整のため、医療・介護・福祉・行政など各職種が各方面から患者を支えていくにはどうしたらよいのか知恵を絞り援助していくことで地域での生活が過ごしやすくなるものとなり、結果、家族の負担を減らすことに繋がった例もありました。サービス調整に難しさを感じることもありますが仕事に対してやりがいを感じ充実感いっぱいに取り組めるようになりました。これからも地域に貢献できるように取り組んでいきたいです。

ふれあい地域医療センター 中田 佑花



「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 / FAX 076 (422) 1154

メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp

